

# 元気通信

GENKI-TSUSHIN

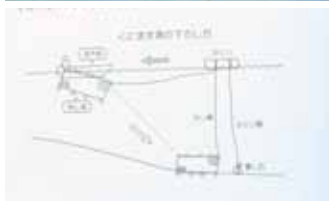
松田幸子さん  
(生保内字武蔵野)



昔の潟尻周辺



クニマス漁の様子



1mぐらいの鯉も捕れました

## 昔の田沢湖は 「こんなにも豊かな湖だった」



昨年末以来、「クニマス生存」のニュースで賑わっています。今から10年以上前に田沢湖再生に願いを込めて絵本「希望」を発行していた松田幸子さん（生保内武蔵野）にお話を伺いました。

松田さんは、クニマスを探し続けていた故三浦久兵衛さんの姪にあたり、生前三浦さんから昔の田沢湖について聞いていたことを平成12年に絵本にまとめています。

「うれしかったですね。幸せという感じです。すごい発見だと思います」とクニマス発見の報道を聞いての感想。

絵本の内容については、「昭和

15年以前の自然に恵まれた豊かな生活を中心に紹介しています。田沢湖には65軒の組合員からなる様湖漁業協同組合があって、クニマス、コイ、ウグイ、イワナ、ウナギなどを捕って生活し、農業よりも漁業で生計を立てていたようです。飢饉の時でも、近隣の人たちに魚を食べさせたりすることがあったと聞いています。また、クニマスの捕り方についても、刺し網漁の方法を詳しく図解入りで説明していますと。

田沢湖に玉川の水が導入された経緯については、「初めて聞く人でもわかりやすく簡単にまとめています。導水については、

時代背景からも阻止は難しかったかもしれませんが、現在では考えられないことが起こってしまったと思っています。田沢湖の自然はもとより、食文化までも根絶やしにしてしまったことは残念なことです。今後は、時間はかかるかもしれませんが、昔の田沢湖を再生し、クニマスの里帰りができたらと思います」と話してくれました。

※松田さんは、「希望」のほかにも、田沢湖周辺の民話を「田沢湖のむかしばなし」にまとめています。